

# CICD Newsletter

College for International  
Co-operation and Development

## There is no future without water

～水がなければ未来もない～

今日、私たちは水が一番重要で再生不可能な自然の資源であり、同時に不十分な資源であることを知っています。水は地球温暖化からの影響を直接に受ける資源であり、「生物の消滅」「生態系の崩壊」「食糧の消失」と並行して飢餓、新たな植民地、支配と依存関係を生むこととなります。



北部モザンビーク、カボ・デガード県のQuirimbas国立公園 (QNP) には、多くの野生生物が生息しています。そこで生計を営むマクア族は、彼らを食べて生活しています。そのため、これは1つの生態系（食物連鎖）として成り立っていると言うことができるでしょう。

この生態系と地下水のシステムは、モンテプエス川 (Montepuez river) とビリビザ潟 (Bilibiza lagoon) によって成り立っています。また、このような生態系の関係は他の県で居住する人々にも影響を与え、その結果として村と都市の間で食糧や商品の交換が発生します。

私は自分が母国コロンビアにおいて、水資源に関わる環境保護活動やその他のことを専門としていたことから、かねてよりこの地域におけるHumana People to Peopleの活動に興味をもっていました。実際、私がCICDに参加した大きな要因は、DIとしてこの地域で活動する意図が大きかったからです。

私は敢えて、水の枯渇と環境状況（生態系も含め）の悪化についての因果関係を言及します。モンテプエス川下流とビリビザ潟を観測する限り、QNP内の分水界は同じ水源をもち、地域の井戸はこの影響を受けて変化するからです。

NEWS LETTER FOR  
DECEMBER

### 目次：

---

*THERE IS NO  
FUTURE WITHOUT  
WATER - By ハニョ 1*

---

*THE FIRST STEPS  
OF EDUCATION  
- By ジュリアン 4*

---

*CO-TEACHER IN  
THE GAIA PROGRAM  
- By ピエトロ 8*

---

---

---

---

### 関連ウェブサイト：

[CICD日本語HP](#)

[www.cicdvolunteer-japan.org.uk/](http://www.cicdvolunteer-japan.org.uk/)

[CICD日本語ブログ](#)

<http://volunteermemo-ries.blog94.fc2.com/>

## 環境状況の説明

火災の発生が原因でカボ・デガードでは、ルリオ川 (Lurio River) の向こうにある他県に比べると、大規模な森林破壊が問題となっています。

ルリオ川を越え、北の方の地平線を見始めると、煙の色と空が特徴的な灰色で覆われているのが見えます。この一帯の風景は突如、みずみずしい森から完全に破壊されたものへと変化を遂げ、多くの植物がその被害を受けてこの地域に食糧不足と商業流通のストップを引き起こしました。

土地を覆う全ての植物が広く失われている地域では、水はすばやく蒸発します。水は雲へと変わり、一般的にエリアの中を周りながら戻ることなく、東から西へ、北から南の方角へと風によって動いていきます。ここでの水の蒸発レベルは、モンテプエス川を観察することで測定できます。ビリビザ瀉に水がなければ、2ヶ月以内に1.5m以上の水位が落ちることになります。

その結果、一般的な人々の考えに反して、これは森の消滅を招いて狩猟のストップを引き起こします。森林の消滅は1,000もの動植物の死を招き、ひいてはその土地で生計を営む人間にも影響を与えます。なぜならば、全ての食物連鎖という生態系が壊れ、最終的に食糧生産物の不足を引き起こすからです。

例えば、この2つの水の流域に生息する動植物の多様性が失われれば、様々な影響が他へと及び、絶滅の危機にさらされます。生態系システムは、1つから成立していないからです。

1つの環境のドラマがここで起きているのにも関わらず、また、水資源の枯渇と注目を浴びているのにも関わらず、組織やプロジェクトのリーダー、この地域に居住する住民たちの人目を惹かず気づかれない理由は何なのか。

この状況についてのインタビューを行い、様々な社会的な関係者、地元当局にも状況の報告を与えたが、最終的な結論や反応を持つことに関心を示すこともない理由は何なのか。これらはある意味において、なぜこれらの問題に大して何もされていないかを説明していると言えます。そして、それどころか人間の行動は、無意識に環境と人為災害の速度を速めているのです。



その結果、短期間で地域の組織、プロジェクトと地域コミュニティは廃れる運命にあります。現在の教育、健康、環境、植林と生産性の高いプロジェクト、企業家精神、プロモーションと観光業—これらは、今ここで起きている環境問題にストップをかけるための支援活動とは言えず、危険性が高いものです。

全ての投資と資源や人的資本の持続可能性は、水の持続可能性に依存するからです。



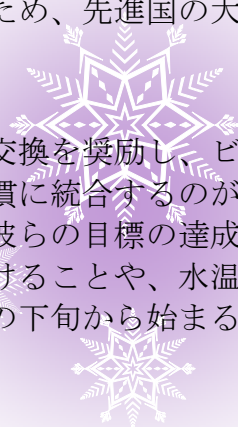
## この地域の未来図 - Quirimbas国立公園でのウォーター・プロジェクト

ウォーター・プロジェクトは、ビリビザ村の水と生物を研究する研究所の発足を目的としています。それは、国立公園内の天然資源の保護と地域の持続可能な開発を行うことによって、この地域をモザンビークの1つのモデルとする意図が含まれています。

この研究所の研究室にハイドロ計測装置電子機器やコンピュータ解析、遺伝子銀行、フィールドのツール、および専門図書館を設置することを目的としています。この研究所は専門的研究やその他、様々な種類の拠点となることを目標としているため、先進国の大学によってサポートされる必要があります。

これは目標です。研究所を通して国家間での知識と技術の交換を奨励し、ビリビザ村の農業学校の学生たちを通じながら、マクアの人々の日常生活や習慣に統合するのが目的です。そのためには、これを深める必要があります。地域の組織を強化して彼らの目標の達成を助ける必要があります。また、このようなプロジェクトを発足し研究を続けることや、水温や水質の変化を観察し記録し続けることはとても重要なことです。特に11月の下旬から始まる雨季に向けて、これらの観測は大切なこととなってきます。

2010年3月の第3週には、“第15回国際アフリカの水会議”がウガンダのNampalaで開催されます。この未来像は1つの良いシナリオとして、多くの人々に知ってもらうためにも、積極的に伝えていくべきものだと私は考えています。



### 追記

私が事後研修期間中に自身のボランティア経験をこのようなレポートとして残した理由は、後々のCICDの学生や他のDRHスクールの人々の情報提供の一環として、次の人たちの参考になればと思い至ったことに始まりました。

CICDの学生を含めた多くの人々が、特にこれからアフリカへと派遣される人々は、水の問題とアフリカ地域における気候変動の理解に興味があります。

このレポートが、少しでも彼らを手助けするものであれば幸いです。

2008年9月チーム *Janio Jaramillo Flechas*



# THE FIRST STEPS OF EDUCATION

## ～教育のはじめの一步～

私がモザンビークに着いたのは2009年3月3日のことで、私はNampula' s州NametilのTTCプロジェクトに居ました。私は2ヶ月間ここに滞在し、それがきっかけとなって、私は自分が子どもたちと一緒に活動したいという自分の気持ちと、そのアイディアに気づくことになりました。

Nametilでは1週間に3回ほど私は幼稚園の周辺を訪問し、私たちの生徒を監視しました。私は彼らの授業を観察し、それを評価しなければなりません。私のこの経験は現地モザンビークの教育システムがどのようなものであるのかを考えさせ、同時にモザンビークの青少年たちについて知る事ができる良いきっかけとなりました。

私は比較的早く現地の生活に慣れ親しみ、TTCでは地理と歴史を教えていました。また、私はPeace CorpsというNGOで活動している2人のアメリカ人と出会ったことがきっかけで、彼らが活動する地元の中学校でも地理を教えていました。私はこのとき、現地の子どもたちや10代の若者たちの世界に関する知識の乏しさに気づきました。同時に、私は限られた教材の中でいかにして彼らに地球について教えることができるのかーそれについて考えなければいけません。

私は自分のこれらの活動が好きでした。生徒たちを監視し評価する。幼稚園と一緒にビルディング・ウィークエンドを行うなど、Nametilでの活動は充実したものでした。しかし、私は自分をもっと最初の教育を必要としている場所で活動をしたいという深い気持ちに気づき、それを抑えることができませんでした。そのため、私はそれを叶えるために北へと移りました。そこは、ビリビザ村と呼ばれるところです。



### ビリビザ村での活動

私は村から10分ほどのところで生活し、Escolinha (小さな学校) で活動を行いました。この学校は何年前にあるDIが作ったプロジェクトで、子どもたちが学校に行く前に基本的なことを学べるように作られた場所です。そのため、ここに居る子どもたちは3～5歳です。私はここでの活動当初、適度に活動を行いました。今ではとても良くなったと言えます。今では遊び場と教室をもつことができているからです。

毎朝7時頃になると、村から子どもたちが遊んだり学びにやってきます。彼らは公用語であるポルトガル語を話さず、Macuaという部族語を話します。このことは、私と子どもたちとの間でコミュニケーションをとる際に少なからずの弊害をもたらしましたが、同時に面白い挑戦でもありました。子どもたちは遊び場にある木の家に登って遊んだりして、楽しく遊んでいます。

何ヶ月か前に、私は自分の家にたくさんのおもちゃがあることに気づきました。私はこれらを良質なものとそうでないもの、安全であるものとそうでないものに分けて、毎朝少しずつ学校へ持って行きました。選別したとはいえ、ほとんどのおもちゃはどこかが壊れているか、何らかの部品が欠けています。しかし、それでも子どもたちはそれが新しいおもちゃであるかのように、楽しんで遊びます。それがなぜであるのか、知ることにはそう時間はかかりません—あなたが村に戻れば、その理由がわかるからです。子どもたちが遊ぶ手段といえば、限られた材料で彼らの想像力や手によって作られたおもちゃだからです。例えば、ここではプラスチックの瓶は車になり、トマトソースの缶はトラックになります。何らかのプラスチックの破片は飛行機となるのです。



授業が始まる時、子どもたちを時間通りに着席させるのはそう難しいことではありませんでした。私はただ少し声を高くして「Entrada! (点呼するよ!)」と叫べば、彼らは教室へと走ってきます。少し前までこの教室は、ただの棒とわらの屋根で作られたもので壁がありませんでした。そして、雨季の強い風によってその屋根もふきとばされてしまいました。

私が到着した時には、誰かがステンレスの屋根を備え付けていましたが、壁がありませんでした。そのため、私はいくつかの竹を購入して他のDIYたちの助けを呼びかけ、近くの農業学校の生徒たちと一緒に壁を備え付ける活動を企画・運営しました。また、それだけではなく、私たちはトイレも作り直し、学校周辺を覆っていた草を取り除く活動も行いました。そのため、現在の学校の状況は良くなっています。



私がEscolinhaでの仕事を受け継いだ時、私の大きな恐れみたいなものは、どのようにして彼らを教えることができるのかということでした。なぜならば、私はいつでも子どもたちが大好きでしたが、私には子どもたちと何かをするという経験がこれまでに全くなかったからです。

しかし、その答えは意外と早く訪れました。仕事を始めて2日間目に、私は自分が正しい場所に居ることを感じました。私が初等教育を今まさに受けようとしている彼らと一緒にいるためには、ただ自分のことを思い出せばよかったです。私は色の名前、数字、動物の名前、果物や公共機関などについて教えることをはじめ、彼らはそれらを学び習得していきました。私は彼らが来年には学校へ通うことを思うと、自分がこれまでにしたことを誇りに思いました。なぜならば、彼らはすでにポルトガル語による基本的な言葉を知っているからです。



時々、私はSergioという学校に雇用された現地の人の助けを得ることができました。彼のおかげで、私は多くのことを簡単に行うことができたと思います。なぜならば、彼は部族語のMacuaを話すので、私が子どもたちに重要なことを教える時には、彼は私がポルトガル語で言ったことをMacuaに通訳して子どもたちに伝えてくれたからです。

私は彼らがまだ幼いことを知っています。しかし、それでも私には彼らにどうしても伝えたいことが、伝えなければいけないことがあります。それは、彼らが今よりも少しでも良い生活を送るためには、勉強するしかないということです。そしてこれはアフリカにだけいえることではなく、おそらく世界中のどこの国でもいえることだと思います。

私は時々村を歩き、Escolinhaの子どもたちに出会います。彼らは遠くから私を呼んで走って駆け寄り、私が1つか2つしか理解できない言葉で何かを話し出します。これはとても嬉しいことです。私たちのコミュニケーションは異なりますが、そこに限界はありません。私は彼らの家を見て彼らの日常生活を知り、彼らがどのようにして楽しんでいるかを知りました。私はそれを通して自分の幼少期を思い出しました。私の国はそこまで発展しているとはいえませんが、同時にモザンビークからも遠い状況にあります。私は健康で安全であり、たくさんのおいしい食べ物がありました。なので私は、正義と平等ということに対する、1つの疑問が思い浮かばずにはられません。

私は別に心理学者でも何でもありませんが、「私たちの性質を築き上げるものは何であるのか」ということを探し続けています。それは私たちの幼少期に築き上げられるのか、それとも良心の影響なのか。環境、周囲の人々による影響や単に私たち個人の行為と倫理観からくるものなのか。運命なのか、そうでないのか。

とにかくも、私は人間の性質はある気持ちを創りあげます。それは、人生を変えるために何かを探したいという願いです。だから私は今、こうしてここEscolinhaに居るのです。そして、毎日異なる人々と触れ合い、その環境に触れるということは、私自身に心を開き広い視野をもつことを忘れないでいる大切さを教えてくれます。そうすれば、私は異なる人々や文化を理解し、尊敬することができるからです。

私がこの活動を通して行った仕事の結果は、ただ子どもたちと遊んだり、例えば数字やポルトガル語を教えるという勉強を教えただけではありません。私は彼らにお互いをどのように尊敬するか、「ありがとう」と言うことの大切さや例えば順番を守るということ、お互いを罵りあわないということなどを教え、彼らの両親に彼らがどれだけ両親を愛しているかを伝えていきました。これらは教育の基礎だけではなく、人間としての最初の一步だと思えます。

2008年9月チーム *Julian Criscione*



### ☆2010年5月チーム参加者大募集中!!☆

5月チームの参加者は、マラウイ、モザンビーク、ナミビアに派遣される予定です。ガイアプログラム参加を希望される方、ご相談に応じます。

→[cicd05@yahoo.co.jp](mailto:cicd05@yahoo.co.jp)までお気軽にお問い合わせ下さい。

まずはCICDの生活やボランティア活動に知りたい方は、CICDブログをご覧ください。

→<http://volunteermemories.blog94.fc2.com/>

# Co-Teacher in the Gaia Program

## ～ ガイアプログラムでの教育実習～

私の南アフリカ・TCEプロジェクトでの6ヶ月間の活動を終えたときの考えは、プロジェクト・リーダーとして南アフリカか、それ以外の国で行われているTCEに戻ることでした。実はというと、私は今でもこの夢があります。しかし、私が実際にCICDに戻ったとき、私は先生の補佐役を試みることを考えていました。私はCICDで先生の補佐役として活動することは自分にとってもいいトレーニングであり、アフリカで活動を終えたばかりの私が先生となることは、プロジェクトのためのいいDIたちを送ることができると思ったからです。そのため、私は今ではこの仕事を1～2年続けることを考えています。これにより、私は自分がプロジェクト・リーダーになったときに活用できる、さらに多くの知識と経験を得ることができると考えているからです。

私は今はウェンディ（ガイアプログラムの担当者）と一緒に、彼女の補佐役として練習を積んでいます。教師として私はどのように多くの異なる国籍の人々と働くかを学び、彼らや彼らのチームの活動を組織しています。私は人と居ることが好きなので、私はとても楽しんでしています。それは充実した生活といえるでしょう。

ウェンディと私は1週間の予定を一緒に組み、私の1つの課題としてチラシ配りを行うガイアの人々のために地図の作成を指導し、チェックするものがあります。これは、とても大きな仕事です。なぜならば、ガイアには現在26人の人々が在籍しているからです。私は彼らのモチベーションを刺激し、彼らが元気になるように勇気づけています。私は去年にガイアとして活動を行っていた経験があるので、その時の私の経験はとても役に立っていると言えます。



以前にウェンディが休暇でCICDにいなかったときは、私に全ての管理が任されました（DIシニア指導員のカリンの手助けもありましたが）。私は学習日の計画を立てたり、車が壊れたときの問題を解決したりと、何かと忙しい1週間でもありました。人は自分自身を忙しくしているとき、問題を「問題」だと感じません。それは、ただ解決するのが必要なだけです。

私のプロジェクト・リーダーは、かつての私にこう言いました。「問題は何もないーただ挑戦だけがある！」と。そのため、このときの1週間は私にとってとても良い挑戦の期間だったと思います。



もう1つの良い経験は、学習日です。私たちはWakefieldにある石炭の博物館を訪問しました。交通手段の決定にだいぶ苦労しましたが、それでも学生たちはとても楽しい時間を過ごしたようです。そのとき、学生たちは私に多くのことを質問しました。それは例えば、どのようにして古着リサイクリングをもっと向上することができるかーなど、その他、多くのことです。そのためか、私たちが博物館からCICDに戻った時にはミーティングを行うことを決めており、そこで学生たちは私を交えて非常におおくの議題について議論することになりました。

ミーティングで私たちは、これまでの1000枚から1500枚のチラシを持っていて配布することを決定しました。そうすれば、私たちはもっと多くの古着を回収できると考えたからです。ここで私が感じたことは、彼らがチームのお互いの中に友情を築いて協力し合う感情が強く芽生えているということでした。私は先生として、そのように何かの向上に向けて真面目に取り組む彼らを見ることはとても嬉しいことでした。

私はブラジルでマネージャーとして働いていました。そのときの私は1~2人の人たちと一緒に働き、ほとんどをコンピューター関係のことで時間を費やしていました。だけど、今の私がしていること・しなければならないことは、人々のことです。

今の私には例えば私よりはるかに年上の学生をどのように教えるのかという困難な問題もありますが、私はその問題をチームがどのようにして笑い、仲良く過ごせるか、どのように良い関係を築けるのかを学んでいるところです。

CICDプログラムはとても難しいプログラムです。しかしながら、それと同時にとても深い経験をする事ができるプログラムだということができます。多くの異なる人々と一緒に働き、いつも忙しく、いつも何かしらの問題を解決していく…。だからあなたがもしここに来ることを決めたならば、そのときあなたはとても困難な時間を過ごすことになるでしょう。しかし、それでもあなたは、他のどこでも得ることができない経験を得ることができるということを、その困難な時間を通して知ることができます。

2008年9月チーム *Pietro Piccini*



*College for International Co-operation and Development (CICD)  
@ Winestead Hall, Patrington  
Hull, HU12 0NP  
England  
Email: cicd05@yahoo. co. jp*

*Contact Details:  
Tel: +44 (0)7813 854 298  
+44 (0)1964 631 826  
Fax: +44 (0)1964 631 695*

*Websites:  
[www.cicdvolunteer-japan.org.uk/](http://www.cicdvolunteer-japan.org.uk/)  
<http://volunteermemories.blog94.fc2.com/>*